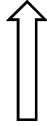


わかり、自分でできるための支援

[児童の姿]

気が散りやすく
登所の準備がスムーズにできない。



[具体的支援]

・まとめてできるように、絵のついたカゴを使って
用意する。



[具体的な状況]

・カゴに全部入れることを拒み、今までどおりリュックサックから1つずつ出す方法にこだわる。
・カゴを使うか、使わないか、ということに気が散って登所の準備がスムーズにできない。



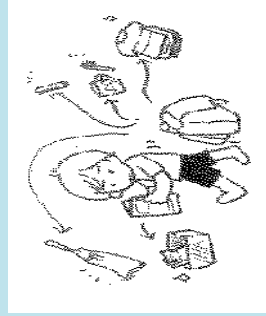
[その後の具体的支援]



POINT

- ・周りに気が散りやすいため、動線を整理していきます。
- ・自分で選んだことで、スムーズになることがあります。
- ・集中できるように、タイムタイマーを使用して、時間を示すのもいいですね。

・カゴを使うか、1つずつ用意するか、方法を自分で選ぶ。



[その後の具体的な状況]

・1つずつ用意するやり方を選び、見守られながら自分で用意をする。
・「見ててや。」と言いながら、スムーズにできるようになる。

感覚過敏を和らげるための支援

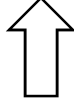
[児童の姿]

のりの感触が苦手で、のりを使った制作活動を嫌がる。



[具体的支援]

・直接のりを触らなくていいように、筆でのりづけを試してみる。



[具体的な状況]

・のりが手につくたびに手を洗いに行くので、制作活動が中断する。
・筆を使うのりづけである、自分でもできるようにするが、少しでも手につくと嫌でやめてしまう。

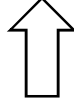


POINT

のりを使った制作活動では、指先を使うことにポイントを置きがちですが、のりの感触が苦手な子どもには、スティックのりを使用し、手が汚れないようにすることで、制作活動を楽しめる工夫もできますね。

[その後の具体的支援]

・のりづけの時にすぐに手が拭けるように、濡れたタオルを置くようにする。



[その後の具体的な状況]

・1回手を拭きながら、嫌がらずにのりづけをするようになる。

わかり、自分でできるための支援
(制作活動)

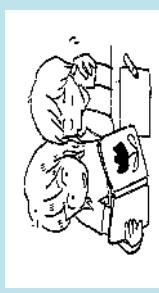
[児童の姿]

絵を描くのが苦手。
紙の前にしてもな
かなか描けない。



[具体的支援]

・保育士が側について、イメージできる絵本などを一緒に見ること、色や形などのイメージを確認する。



[具体的な状況]

・絵本を見るだけでは、描こうとはしない。

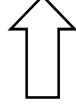
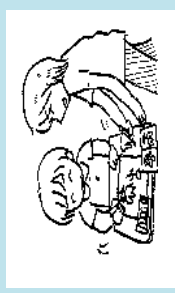
[その後の具体的な状況]

POINT

絵のイメージの弱さを補うために、保育士が形を途中まで描いて続きを描くことをすすめたり、色を塗ることを任せたいして、最後の仕上げを子ども自身がすること、達成感を味わう事ができるようにするとよいです。

[その後の具体的支援]

・子どもが「チューリップの絵を描いて」と言ったので、保育士が、チューリップの花の形を描き、「色は自分で塗ってね。」と、色を塗ることをすすめる。



・色を塗ることは集中してやりとげ、できあがったことに満足して、他の先生に見せに行く。

絵を描くことが苦手な子どもが、達成感を味わえるためのひと工夫

- ・描くきつかけ作りとして色塗りや、顔なら目だけ描いてみるようにする。
- ・絵描き歌に合わせて描く。
- ・保育士が描いた絵を真似っこする
- ・ステンシル（型抜き）をする。…P14①
- ・経験したことを写真に撮っておき、写真を見ながら描けるようにする。

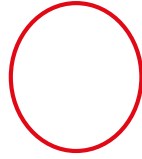
顔がイメージしにくい場合の支援

- 絵を描く前にやってみましょう
- ボディイメージのできる遊びをしてみる。
「目はどこかな？」「顔の真ん中にある鼻はどこかな？」などと言って、各部分に触る。 etc.
- ○△□の構成あそび

● 今度是一緒に描いてみましょう

- 「顔の形はどんな形かな？丸？○ 四角？□ 三角？△」（○△□を描いて見せても良い。）

- 「じゃあ、先生が○を描くよ。」



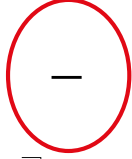
POINT

形は、保育士が描いてあげるとよい。

- 「目の上に眉毛を描いてみよう。」



- 「真ん中に鼻を描いてみようか。」



POINT

最初に鼻を描くと、他のパーツも位置をとりやすい。

- 「目の横に耳を描いてみよう。」



- 「鼻の両側に目を描いてみよう。」



POINT

絵を描くことができない苦手ならば、口を仕上げることでできたところで完成としてもよい。

- 「鼻の下に口を描いてみよう。」



- 「最後に髪の毛を描いてみよう。」

